

海外インターンシッププログラム

| | |
|-----------|----------------------|
| 派遣国・都市名 | アメリカ・ワシントン州シアトル市 |
| 研修先 | 兵庫県ワシントン州事務所 |
| プログラム実習期間 | 2014年8月25日～9月12日 |
| 学部/研究科・学年 | 人間発達環境科学研究科 博士前期課程1年 |

インターンシップ就業実習 報告書

インターン先の兵庫県事務所まではバスで行くのだが、初日は不慣れだということで、ホストマザーが事務所まで車で送ってくれた。事務所内では日本語と英語の両方が使われており、雰囲気慣れるまで2、3日かかった。インターン担当の上司は、大学で日本語を学んだネイティブで、英語で指示を出され、複雑なことなどは日本語で説明する、といった感じであった。

はじめの2週間は、2週間目の週末に行われる秋祭りに向けた準備が中心であった。日本に居る内から、担当の上司と紹介するトピックを相談していたので、説明文など具体的な内容を決定しつつ、秋祭り当日に展示するパンフレットとボードを作成した。

パンフレット作成に関しては、英語版のPhotoshopを用いて写真、説明文をレイアウトした。Photoshopのソフトは日本語版でも使ったことが無かったが、上司・他のインターン生に尋ねたり、インターネットで調べることで使用出来た。英語の説明文に関しては、自分たちで書いた後、上司に添削してもらい、わかりにくい表現などを訂正した。

パンフレットの作成に予定より時間がかかったため、ボードは効率的に作る必要があった。それぞれ、ボードのレイアウトと説明文の草案を上司に見てもらった後、作業をはじめた。秋祭りの週の水曜・木曜は就業可能時間ぎりぎりまで作業を行っていた。金曜の午前中にボードも完成させる事ができ、昼からは秋祭りの会場である Bellevue College に設営しに行った。

秋祭り当日は2日とも快晴で、9月ながら非常に暑かった。日本語も喋れる方ばかりの事務所とは違い、現地の人々と交流する貴重な機会の一つだったと思う。予め説明文のスク립トを作っていて、それを基に解説し・説明の最後に簡単なクイズを出し・兵庫県に関連するグッズをプレゼントする予定だったが、実際にはなかなか思っていたようには行かなかった。他にも沢山ブースがある中で、長く立ち止まってもらうことは難しく、また暑い中解説し続けるのは体力的に厳しく、方法を替えることになった。立ち止まって見ておられる方には「質問があればお声かけください」といった趣旨の言葉をかけたり、ボードに無い詳しい説明を付け加えたりした。臨機応変に対応したことで、2日間を乗り切ることが出来、また解説を必要としている人に焦点を絞って説明できたのではないかと思う。

秋祭り後は、疲れが残っていたこともあり、最終週のうち何日間かは休みや半休をいただいた。また9月末に事務所が移転するため、通常の仕事が少なく、兵庫県事務所の隣のセンターの仕事を手伝った。こちらでは日本の紙芝居を英語に翻訳したが、日本語の独特の表現を英語にする難しさを実感させられることとなった。

ホストファミリー・現地の人々との交流に関して

ホストファミリーとは、現地到着前からメールや Facebook で連絡を取っていた。ホストマザーは、シアトル生まれシアトル育ちで 60 年以上住んでおられる方で、シアトルの歴史や人種の多様性などを教えて下さった。また、芸術や国内・国際政治に関心を持っておられ、それらについて話し合うこともあったり、一緒に街中のギャラリーを散策したりした。子供がいらっしゃらないご夫婦で、迎えた学生を自分の子供の様に考えて下さり、私と一緒にの時期に滞在していた他国の学生を温かく迎えて下さった。

秋祭りでは、日本に関心のある現地の方と会うことが出来た。漫画やアニメといった文化に興味がある方から、ホームレスのためにカプセルホテルをシアトルに導入したいと言っておられた方、知り合いに日本人がいるという方まで様々だったが、日本に対して関心を持っておられる方の存在を嬉しく感じた。

街中では、信号待ちをしている時に時間を聞かれ答えたところ、「自分はホームレスで日本に興味があり電話番号を教えて欲しい」などと言われたり、バスを待っている時に両替を頼まれたりしたが、自分に対応出来ない事に対してははっきり断っていれば、トラブルに巻き込まれることは無かった。

感想および意見

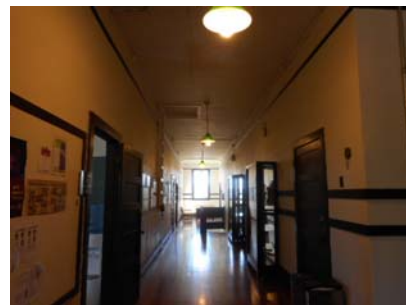
シアトルには一部治安の良くない地域もあるということで警戒して行ったのだが、実際に行ってみると、多くの方が温かく接して下さる街だということがわかった。また、アジア系の移民も多い街で、街中に中国語表記や日本語表記があることもあり、国際色豊かな場所であった。

インターンでは、一緒にインターンを行った学生やインターン担当者の方と主に作業する事となったが、主に英語で、考えの異なる人と作業するのは難しくもあり、面白くもあった。反省点としては、やりたい事を押し進めるだけでなく、現実に行うことが可能なものか考える、一緒に働く上で相手への配慮がさらに必要だったかもしれないと感じた。また、英会話に関しては、事務所でのビジネスシーンでの英語、ホストファミリーとの日常会話の両方を学んだが、話すスピードの速さや・発音に戸惑うこともあり、また自分の話す発音を聞き取ってもらえない事もあり、課題点が多々見つかった。

今後、英語を用いて話したり仕事をしたりする機会に向けて今回のインターンは有意義な経験となった。また課題点も見つかったことで自分をどう変えて行けば良いか、という点を見直す機会にもなった。



事務所の外観



事務所の廊下